

標 題 : Dietary Fatty Acids and Colorectal Cancer: A Case-Control Study
食事性脂肪酸と結直腸癌 : 症例 - 対照研究

著 者 : E. Theodoratou, et al. (英国 エジンバラ大学 公衆衛生)

掲 載 誌 : Am. J. Epidemiol. 166(2): 181-195 (2007)

要 旨 : 脂肪酸の結直腸癌リスクに対する影響を、スコットランドにおける発症例 1,455 人とマッチした対照 1,455 人による前向き症例 - 対照研究(1999-2006) で研究した。

エネルギー(残留法)と他の危険因子を調整した 3 条件のロジスティック回帰モデルを全サンプルに適用し、そして性別、癌の部位、年齢、腫瘍の病期分類で階層化した。

総脂肪、トランス 1 価不飽和脂肪酸、パルミチン酸、ステアリン酸、およびオレイン酸が量依存性に結直腸癌リスクと関連したが、エネルギー調整後にはこの影響は持続しなかった。

有意な量依存性のリスク低下が n-3 系多価不飽和脂肪酸の摂取増加と関連し〔最高対最低群(4 区分):オッズ比 = 0.63、95%信頼区間 0.50-0.80; $p < 0.0005$ 動向〕、EPA〔オッズ比 = 0.59、95%信頼区間 0.47-0.75 ; $p < 0.0005$ 動向〕と DHA〔オッズ比 = 0.63、95%信頼区間 0.50-0.80 ; $p < 0.0005$ 動向〕の摂取増加とも関連した。

この関連は、栄養素、エネルギー、脂肪酸の摂取を調整した後にも持続した。

脂肪酸の種類によって異なる影響が観察されたので、結直腸癌の原因と予防において脂肪の種類的重要性が強調される。
